

# はくぶつかんネットNo.61



平成29年度 1~3月号

発行：宜野湾市立博物館

ぎのわんの“<sup>あざ</sup>字”展

## 野 嵩

～あしび華やぐ伝統の野嵩ムラ～

毎年、宜野湾市内の一つの地域に焦点をあて紹介している「ぎのわんの“字(あざ)”展」。

平成29年度は、博物館リニューアル工事のため二年ぶりの開催となり、平成30年1/24(水)～3/4(日)の期間、伝統芸能華やぐ野嵩について行いました。

他市町村からも企画展開催を知って、「野嵩出身だから観に来たよ。」とおっしゃる方や、懐かしむようにお友だち同士でご来館の昔乙女たち、ゆっくり時間をかけて見学する中学生などなど。

皆さまに好評の企画展となりました。

今回の企画展開催にあたり野嵩一区自治会を始め、貴重な資料をご提供くださった地区のみなさま、ご協力ありがとうございました。

それでは、野嵩の芸能や史跡などについて次のページでご紹介しましょう。



### オープニングセレモニーの様子



## ● 野嵩の芸能



### ・マールアシビ

### ・ちなひちもうい

戦前まで行われていた旧暦 6 月の綱引きの際、士気を高めるために踊られていた女性たちの踊りです。1991(平成3)年に踊りを復活させ、それ以降は現在も一つの行事として継承されています。

1860 年頃から始まったとされ、開催された年から数えて次に開催されるのは 7 年後であることから「シチネンマール(7年廻る)」「マールアシ」とも呼ばれます。子・午年の旧暦 8 月 15 日に野嵩あしびな公園で行われます。



## ●野嵩の民話

### ウフグティ

野嵩の東はずれに牡牛(ウフグティ)が座っているような形の岩が中城村新垣へ向っている。その昔「新垣のガンワーという岩が吠えると野嵩に病気が流行り、ウフグティが天から落ちてきて新垣に吠えると、その後は病気がなくなった」という。



### 野嵩の山は龍

昔、野嵩は龍の形に似た山に囲まれており、その間に挟まれた野嵩からは成功者が出なかったそう。そこで、この山のせいだと考えた村人が山を三つに切ったところ村から成功者も出て村も栄えたそう。  
※参考文献：『宜野湾市史第5巻』



## ●野嵩の史跡



### 野嵩石畳道

市指定の史跡となっている集落の東北、県道 35 号線の東側に 60m ほど残る近世の石畳道です。首里と勝連方面を結ぶ公道、いわゆる「宿道(しゅくみち)」の一部で、集落のナカミチを通り、宜野湾並松街道へ繋がる道でした。また、「阿麻和利(あまわり)の乱」で敗れた護佐丸(ごさまる)の乳母が、この道を通って首里へ逃げるとき、追っ手が放った矢によって袖が引き離された、と伝わる話から「スディバナビラ(袖離れ坂)」とも呼ばれます。

### クシヌカー

こちらも市指定の史跡としてご存じの方も多、集落のナカミチ沿いにある石積みのムラガー(村泉)です。生活用水の他、正月のワカミジ(若水)や子どもが生まれたときのウブミジ(産水)を汲んでいました。クシヌカーから流れた水は、近くにあった池に溜まり、牛や馬の水浴びにも利用されていました。



タップミノーやグッピーなども見られます。

# わらば～体験じゅく

今年はこんな体験をしました(^-^)

第18期わらば～体験じゅくの年間活動の様子を振り返ります。

市内の小学校5・6年生を対象に抽選で選ばれた30人の児童が、宜野湾の歴史や文化を様々な体験をとおして学びました。

**【6月】開校式・博物館見学と  
昔の子ども体験**  
講師：博物館職員



第18期のじゅく生たち  
初顔あわせ!!ドキドキワクワク  
な体験じゅくのはじまり～

**【7月】折ってみよう!**  
沖縄の動物たち  
講師：渡邊 慧



一枚の紙から作上げる沖縄の  
いき物。どの顔も真剣そのもの

**【8月】田イモの植付に挑戦**  
講師：石川 達義



真夏の植付け、みんなドロだら  
けで真っ赤に日焼け(^^ゞ  
そりレースも楽しみました。  
新聞社の取材もあったね♪

**【9月】喜友名シーサーめぐ  
り**



★この回は台風の影響で

**【10月】漆喰シーサー作り**  
講師：比嘉 和行



物づくりは個性が出るね。世  
界にたった一つのシーサーの完  
成!

**【11月】ウシとふれ合おう**  
講師：宮城 邦治



間近に見る本物のウシにみんな  
大興奮!!  
いきもののお世話は大変だ(^\_^);

**【12月】漆の技法体験**

講師：(宮島 さおり、前田 春城、  
前田貴子、森田 敦子、新城 和也) 県  
内工芸士のみなさん



うるしの技法を体験し、思い  
思いの作品を仕上げました。

**【1月】田イモの収穫に挑戦**  
講師：宮城 徳彦



収穫まつりだ!!(^^♪  
収穫のあとは、手作りの美味し  
い田イモ料理をいただきました

**【2月】森川公園探検・閉校式**  
講師：博物館職員



森川公園探検のあとは閉校式  
いろんな体験ができたね。  
最後にいいお顔で“はい!!チーズ  
(\*^^)v “ おつかれさまでした

# がちまやあ Gači-majaa



終戦直後の  
コンセット校舎

前号の博物館ネット 60号では宜野湾に初めて小学校が設立した頃の様子から昭和の戦時体制の頃までの様子を取り上げましたが、61号では戦後直後の小学校の復興の様子や、現在の宜野湾小学校までの過程を紹介します。

## 終戦直後の小学校の復興

～野嵩初等学校時代～

1945(昭和20)年6月、沖縄戦が終結となり、宜野湾では野嵩地域だけがほとんどそのままの形で残っていましたが、他の部落は焼きつくされ、形までもすっかり変えられてしまいました。

戦後、本島北部などの収容所から帰村した宜野湾村民のほとんどが自分の部落に戻れずに野嵩や米軍に準備された地域に住むしかありませんでした。野嵩収容所の学校はというと、野嵩南端「メニューカー」の側にたてられました。



毎日学校へ通い続けたなつかしい宜野湾街道、その両脇に立ち並ぶ勇壮な並木も姿を消し、夢にも思わなかった広大な飛行場が村の中心にでき、新しい軍用道路5号線が普天間と真栄原を結ぶようになり、方向すら錯覚をおこす程だったんじゃ。



ひどい話だわ



↓終戦直後のテント宿舎(沖縄文教学校)



### 学校づくり

校舎は、父兄・先生・子ども達など総動員で造り上げました。何度か台風で職員室を始めほとんどの教室が潰され、その度に区民で建て直したり、マキを補給したり、この様な校舎造りが何回も繰り返されました。



台風で壊れた家や教室を建て直す父母 1948(昭和23)年

各部落において戦争の被害と台風で食糧難と住宅問題は深刻でした。その中にもあっても住民は熱意を失わず子ども達の教育に情熱をかけていきました。

先生方も生活の苦しさに耐えて下校後は農作業をしたり夜間は軍施設内のガードマンなどをしたりする先生などおり、生計をたて児童生徒の教育に涙ぐましい努力を続けていました。

### 授業の様子

戦後始まった学校は、また大変でした。教科書はもちろん、その他の学習用具もなく、テントやコンセットの中で地べたに座って話を聞くのが唯一の学習方法でしたよ。



私達が小学校の頃は、先輩方がリードして朝起き会とか勉強会などやった覚えがあります。当時は「あの部落には負けるな」というふうに競争意識がとても強かったですね。



### 学芸会の様子

父兄の方々が電柱を使って中庭に舞台を造ってくれました。「歌」「本読み」「マツト運動」「劇：太郎冠者・次郎冠者」などがありました。



### 子ども達の様子

子ども達は明るく元気に飛び回っていました。授業は相変わらず午前中で終わり、午後は家に帰り一生懸命に芋くりに励んだものです



終戦直後の子ども達の服装(HBT)

洋服はほとんど米軍払い下げの軍服をきていたんじゃ



当時はこんな事もあったよ



B軍票

1948(昭和23)年7月通貨日本円からB円(B軍票)にきりかえられました。算数の教科書に出てくる物の値段にとまどいを感じる児童が多く、先生方は指導に苦労しました。

## 現在の宜野湾小学校へ



茅ぶきの校舎 1952(昭和27)年

校庭は粘土(ジャガム)でおおわれています。その下は泥岩層(グチャ)の為に水はけが悪く、雨が降ると長い間水でぬかるみました。

屋根は茅ぶきで、かべも竹やスキでつくられていましたが、ちょっとした台風でも吹き飛ばされる有様でした。机やこしかけも、細長い板を釘で打ちつけたお粗末なものでした。雨が降ると教室の中がどろんこになり大事な通学用の”げた”や”ぞうり”がめりこんで、よくベソをかいたものです。



運動場拡張工事 1960(昭和35)年



当時は父兄の手によって作業が進められたんじゃ



1960(昭和35)年頃の校舎



フム  
フム



この頃の宜野湾小学校は、毎年夏場になると校内の飲料水がほとんど干上がってしまい、1000名余の児童は10分間の休み時間になると学校周辺の民家に水を求めてかけこんでいく有様だったんだよ



水道もなくて大変だったのね



1975(昭和50)年頃の校舎

1969(昭和44)年に完全給食がはじまったよ



1958(昭和33)年、放送施設一切がそろい、各家庭の親子ラジオにまでつながったんだ



百周年のお祝いの時に「未来の自分へ」と、手紙などを書いて、タイムカプセルを埋めたんだよ



宜野湾小学校百周年の石碑 1981(昭和56)年

石碑には「蛭雪百年」と刻まれています

蛭雪百年とは「努力して学問をする」という意味だ



宜野湾小学校の新校舎完成 1994(平成6)年に校舎が作られました。多目的スペース・コンピューター教室・特別教室・給食用エレベーターなどが整えられました。

宜野湾小学校は、分校前は1学年が7クラス以上あるマンモス校だったんだよ

宜野湾小学校は古い歴史があるんだね

宜野湾小学校の児童数1917人にもふくれ、長田区・宜野湾区・嘉数小学校区の一部を合わせて、志真志小学校が開校いたしました。



志真志小学校への分離 1982(昭和57)年



長田小学校への分離 1999(平成11)年

宜野湾小学校から146人の児童が分離しました。長田区だけの1行政区です。



# 平成29年度 市史編集事業のご報告

## 伊佐浜の土地闘争編

お待ちしております。『宜野湾市史』第8巻戦後資料編Ⅱ「伊佐浜の土地闘争」ですが、平成30年度に刊行を予定しております。市史編集委員会や専門委員会を随時開催し、刊行に向けて調整、また編集作業が大詰めで行われおります。

伊佐浜土地闘争とは、1955(昭和30)年当時、伊佐・安仁屋・喜友名・新城で形成された「伊佐浜屋取」で起きた米軍による強制土地接収の事です。稲作が有名で美田とまで言われた田んぼ、そして32戸の家々がブルドーザーなどで壊されました。田んぼ、家、仕事を失った住民は代替地を求めると陳情を提出したのです。本編では、伊佐浜に関連する史料をまとめ、また聞き取り調査においての証言などを掲載予定となっております。

発刊までもうしばらくお待ちくださいませ。



▲『写真集ぎのわん』より



## 歴史公文書等整理・活用事業



宜野湾市では戦後初期から本土復帰、現在までの歴史的・文化的価値が認められる文書を概ね収集しています。公文書を保存して後世へつなげ、市民の皆様に活用して頂くため、公文書のデータベース化(目録化)・CD化・マイクロフィルム化を進めており、平成30年度は、これら公文書の公開・活用に向けて準備を進めていきます。

もうすぐ公開です



## 沖縄県地域史協議会・研修会



金武大川(キンウッカガー)



午前中の巡見前の様子



とても分かりやすく説明していただきました。



金武観音寺の境内にこんな素敵な花が咲いていました。



記念道路を巡見中、自動販売機に“金武タームくん”を発見!! 最近ハマっているのは、タコライス(チーズやさい)とのこと! とても愛らしいですね^o^



平成29年度 博物館市民講座 年間を振り返って

【5/28】 伝統芸能サングウチャー

講師：比嘉 悦子



聞き取り調査から得た市内の三月節句を紹介しました。

【6/11】 比屋良川の自然

講師：千木良 芳範



比屋良川の地質、植物、生きものについて学びました。

【6/25】 戦争体験を語る

講師：伊波 義雄

幼い日の講師が体験した沖縄戦。

【7/9】 宜野湾の自然(動物編)

講師：千木良 芳範

宜野湾市の自然って何だろう？生きものを取巻く環境をヤンバルの自然と比較しました。

【9/10】 旧石器人とその文化を探る

講師：山崎 真治



人類の誕生・進化から発掘調査でみえる文化を探りました。

【9/17】 闘牛観戦ツアー

講師：宮城 邦治



迫力満点のぶつかり合い(・・;)牛舎見学のオマケ付きでした。

【10/22】 考古学から見た宜野湾

講師：池田 榮史

考古学からみた宜野湾市の特徴や市内の埋蔵文化財分布状況、文化財の重要性を学びました。

【10/29】 疎開先を訪ねて

講師：仲村 元惟

戦時中の講師の疎開先、今帰仁村を中心に巡りました。

【11/5】 琉球王国と宜野湾

講師：麻生 伸一

宜野湾の間切の再編と、普天満宮の由来・普天間参詣について学びました。

【11/26】 中城城跡-護佐丸の

足跡- 講師：城跡ガイドの会  
中城城跡と同村立護佐丸歴史資料図書館を巡りました。

【12/3】 琉球の植物

講師：國分方 吾郎



「琉球の植物」の価値について考えさせられる講座でした。

【12/10】 碑文めぐり

講師：恩河 尚



市内と近隣市町村の碑文をめぐりました。

【1/14】 紅茶の話

講師：後藤 健志



講座の後はグループに分かれて試飲タイム♪

【2/4】 めぐてい！イガルーシマ  
～野嵩編～

講師：平敷 兼哉



ぎのわんの<sup>あさ</sup>字展との連携講座で旧所、名跡などを巡りました。

【2/25】 近世におけるノロの  
継承と就任

講師：儀間 淳一



琉球王国時代のノロの概念や権力、継承について学びました。

平成 29 年度を振り返って 館長あいさつ



館長  
千木良 芳範

平成 29 年度の博物館は、常設展示室のリニューアルから始まりました。でも、このことは何度かネットでも紹介しましたので今回はパスです。

ふり返ると今年の企画展は、慰霊の日祈念展から子どもたちの文化財図画作品展、野嵩を取り上げた字展（これはもう準恒例と言っても良い企画展）といった博物館恒例の展示会にとどまらず、折り紙で紹介する沖縄の動物や、沖縄・宜野湾の植物たちの展示といった目新しい企画まで、いろいろ興味ある企画展が催されました。とりわけ「紙ってるね!沖縄の動物たち」は、超リアルな動物たちの折り紙に見学者も興味津々、また「宜野湾探訪」展は、琉球国の王冠や市内から出土した謎の石板など、こちらもわくわくする展示品のオンパレードでした。

そして市民講座は、屋内講座と野外講座の二本立てになり、回数も 16 回と一気に増大、市民の皆さんの期待に応える講座が目白押し!?!になりました。あわせて、「わらば一体験じゅく」や「こども博物館教室」、学校への出前講座などの開催により、博物館は毎週何かが行われている状況となりました。こうしたいろいろな取り組みが功を奏してか、平成 29 年度の来館者は、開館以来初めて 2 万人を超えました(拍手!!)。博物館としては、これらの結果に満足することなく、これからも、様々な企画と取り組みで、市民の皆さまの期待に応える博物館サービスを提供していきます。平成 30 年度も乞うご期待!!

平成 30 年度博物館友の会 会員募集のお知らせ!

ご入会お待ちしております♪



- ・ 会 員 特 典 : ①博物館主催事業および本会主催事業への参加  
 ②本会及び博物館が開催する行事の通知  
 ③「はくぶつかんネット」「友の会だより」の送付
- ・ 会 費 : 普通会员 (一般) . . . . . 年額 1,000 円  
 準会員 (大学生、小、中、高生) . . . . . 年額 500 円  
 家族会員 (普通会员<二人目から>) . . . . . 年額 500 円  
 賛助会員 (本会の目的に賛同し支援する団体または個人) . . . . . 年額 10,000 円

宜野湾市立博物館 インフォメーション

- 入館料：無料
- 開館時間：9～17時(入館は16：30まで)
- 休館日：毎週火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)  
 祝日(慰霊の日、文化の日は除く)
- ※休館日に祝祭日が重なる場合は、翌日も休館になります。  
 その他、臨時休館になる場合もございます。

■お問合せ

〒901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1 TEL：098-870-9317 FAX：098-870-9316  
<http://www.city.ginowan.okinawa.jp>

★今年度も多くの市民にご見学、市民講座へのご参加をいただきました。  
 次年度もみなさまに楽しんでいただける企画展・市民講座で、ご来館をお待ちしております。



あそびに  
来てけるッ♪

